

京都市平成 31 年度当初予算案（文化関係）

～誰一人取り残さない，持続可能なまちを実現する予算～

1 予算編成に当たっての考え方

（背景）

- ・ 平成 30 年の相次ぐ自然災害による厳しい被害の中にあっても，一人として市民の尊い命は失われず。自主防災会，消防団，水防団，自治会，社会福祉協議会など，京都の地域力，人間力のたまもの
- ・ 平安の建都以来，千年以上にわたる京都の歴史は，あらゆる危機への対応・克服能力，すなわち都市の「レジリエンス」を磨き，高めてきた歴史。そんな京都市が「世界 100 のレジリエントシティ」に選定
- ・ 「誰一人取り残さない」，多様性と包摂性のある，持続可能な社会を目指す国連の目標「SDGs」。日本経済新聞による「SDGs」先進度調査では「環境」「歩くまち」をはじめ，教育，子育て支援，防災・減災等の取組を，市民との協働で，市会と車の両輪となって挑戦してきたことが高い評価を受け，京都市が全国 1 位

（基本姿勢）

- ① 自然災害，人口減少，経済・子育て・地域コミュニティなど，あらゆる現場での担い手不足など，都市を取り巻く様々な危機が顕在化する中，京都が培ってきた「レジリエンス」の理念を，本市行政のあらゆる分野を横断する都市経営の理念として位置づけ，「SDGs」達成の観点も踏まえ，「誰一人取り残さない，持続可能なまちづくり」を推進する。
「SDGs」の達成や「レジリエンス」の視点をすべての施策立案の基礎に据えた上で，とりわけ，京都ならではの「文化」を基軸とした施策の融合・充実を図る。
- ② 厳しい財政状況の中，行財政改革の徹底により財源を捻出し，市民生活の安心安全，全国トップレベルの福祉，医療，子育て支援，教育を維持・充実させるとともに，京都の強みを活かした成長戦略を積極的に推進する。
- ③ 「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画第 2 ステージに掲げる全 307 施策を着実に前進させる。

京都の強みを活かした、豊かさを実感できるまちづくり

(1) 「世界の文化首都・京都」の実現

① 文学や映画を対象とする顕彰制度の創設

- ・ **新規** 京都文学賞（仮称）の実施 1,800 万円

京都における文学の振興に寄与するとともに、京都の歴史と魅力の再認識、都市格の向上につなげるため、「京都文学賞（仮称）」を創設し、京都を題材とする文学作品を募集・表彰

（最優秀賞は副賞 100 万円のほか、協力出版社等からの出版を検討）

- ・ **新規** 映画に係る新たな顕彰制度の創設 300 万円

京都が培ってきた映画文化の継承と更なる振興を図るとともに、時代劇をはじめとした京都での更なる映画製作につなげるため、京都ならではの映画を対象とした新たな顕彰制度を創設

② **新規・充実** 子どもたちが伝統文化・芸術に触れる取組の充実 4,000 万円

子どもたちが、茶道・華道・能楽などの「ほんもの」の伝統文化・芸術を体験する機会を充実し、くらしの中に伝統文化・芸術が根付くまちづくりを推進

- ・ 子ども能楽大連吟（仮称）の実施
- ・ 小学生における茶道体験、中学生における華道体験

③ **新規** 祇園祭創始 1150 年記念事業 2,000 万円

祇園祭山鉾連合会等と連携した記念講演や市民公募写真展等の記念事業を実施するとともに、情報誌を活用した PR 等により、広く祇園祭の魅力を発信

④ **新規** 国際博物館会議（I C O M）京都大会開催（大会開催記念イベント等の実施） 5,100 万円

2019 年 9 月の京都大会開催にあたり、府市協調による大会開催記念イベントや本市独自の関連イベントを実施

- ・ 大会参加者へのおもてなし事業、博物館関係者や著名人による対談や鼎談など

⑤**新規** KYOTO CULTIVATES PROJECT～KYOTO STEAM－世界文化交流祭－の開催～
2 億円

芸・産学官の連携による「KYOTO STEAM－世界文化交流祭－」(※)の開催を中心に、文化創造を担う次世代人材の育成、国際的ネットワークの構築などを推進

※2020 年 3 月に岡崎エリアを中心に、国際アートコンペティション、アーティスト集団「ダムタイプ」や古典文学×伝統芸能×メディアアート「新猿樂記」の新作上演など、「アート×サイエンス・テクノロジー」をテーマとした文化芸術イベントを展開

⑥**新規** 新・京都市美術館オープニングプロジェクト 14 億 2,200 万円

31 年度中のグランドオープンに向けた整備等を進めるとともに、オープニングに合わせて、常設展の新設や開館記念展をはじめとする多彩な記念事業を実施することで、レトロからモダンまで様々な形で、京都の「美」を国内外に広く発信

⑦**新規** 二条城おもてなし環境向上事業 1 億 5,600 万円

民間有識者からなる「二条城の価値を活かし未来を創造する会」からの提案を踏まえ、英語版ガイドブックの作成や、未公開文化財の公開・活用に向けた整備、城内園路・通路の改修など、更なるおもてなし環境の向上を推進

⑧**充実** 「新景観政策」の更なる進化 2,300 万円

30 年度に設置した「京都市新景観政策の更なる進化検討委員会」での審議を踏まえ、高度地区・景観地区の都市計画を変更するとともに、岡崎や円山公園などのモデル地区において魅力ある夜間景観づくりに向けた社会実験を実施

⑨**新規** 全国から京都へ!留学生の戦略的誘致事業 500 万円

首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象とした京都の大学等説明会や京都の学び体験ツアーの実施等により、京都への進学を促進